

本と本棚



花田達朗＝1971年政経
早稲田大学出版部
定価：1800円＋税

コーディネーター花田達朗 『可視化』のジャーナリスト

武蔵野大学名誉教授 高村壽一
(一九六一年政経)

ジャーナリズムは民主的社会が機能するうえで不可欠なものだ。本書は石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞記念講座として開設されている授業の内容を「取材過程」を中心に編集したもので、卓越したジャーナリストの貴重な肉声が聞ける。

マスコミ人は多いが、ジャーナリストは少数である。活字離れが進んでいるためではない。真のジャーナリストは、原則に立ち、諸々の権力におもねらず、事実を曲げず可視化する挑戦者であるからだ。

彼らは困難な状況のなかでも、正義とか普遍性と照らし合わせて社会への発信に個の工夫をこらし創造力を発揮しようとするだろう。情報技術の飛躍的發展で最近では「一対多」ばかりか「多対多」の情報流通も勢いづいている。大マスコミの鏡はひずみがちだ。しかし、だからこそ卓越したジャーナリストの活動が切望されるのである。

本書では「新聞と戦争」「沖縄返還密約事件」「東アジア共同体」などが掘り起こされ、裁判、死刑制度、世論も直視されている。